

泉大津市社会教育委員会議

■令和5年度第3回会議の議事概要

日 時：令和6年2月2日（月）午後1時30分～2時30分

場 所：職員会館 3階集会室

出 席：車谷委員、井上委員、岡崎委員、富山委員、祐仙委員、楠本委員

公開の有無：公開（一部非公開）

傍 聴 者：なし

議 題

1. 泉大津市こどもの読書活動推進計画（案）に対するパブリックコメントの結果について（報告）（非公開）

報 告

- ①図書カード配布事業について
- ②二十歳のつどい事業について
- ③大学連携事業について

その他

- （1）泉北・泉南地区社会教育研修会について

議事概要

議題

議 題

1. 泉大津市こどもの読書活動推進計画（案）に対するパブリックコメントの結果について（報告）（非公開）

報 告

- ①図書カード配布事業について

- ・事務局より、報告した後に質疑、意見交換をおこなった。

岡崎委員）図書カードがインターネットでも利用できるということは、地元経済の活性化のためのものではないのか。

事 務 局）限られた地域の経済対策ではなく、物価高騰に対応するための補助である。国からの全額補助で、市が実施するものである。

祐仙委員）私の孫が対象となっており、広報を見た家族がよろこんでいた。

井上委員）本を読むという人が少なくなっている中で、それに対応するための行政ができる

最大限のことをやっているのではないかと思う。また、大人が本を読むという姿勢を見せないと、こどもは読まない。

祐仙委員) 本を読む取り組みの一つとして、あすとホールでビブリオバトルを行っており、参加者が多い。

車谷委員) あすとホールのビブリオバトルは、イベントが盛況であっても、認知度が低いのではないか。

富山委員) こどもの読書推進計画ともっと繋げたらどうか。図書カードを配布する際に、もっと積極的に紹介していけたらいいのではないか。相乗効果で、いろいろあるものが繋がっていることを見せられるといいなと思う。

事務局) 図書カードの配布が2月を予定しているが、計画の策定が年度末になり、難しい。

岡崎委員) この取り組みは、学校教育とはリンクしていないのか。学校でもどのような本を読もうか考える時間があってもいいのではないか。ただ、学校からの指定図書を示すというようなことになったら、おもしろくないとも思う。

②二十歳のつどい事業について

- ・事務局より、報告した後に質疑、意見交換をおこなった。

井上委員) 次年度の会場候補はどこか

事務局) これまで会場としていた総合体育館、今回と同様にテクスピア大阪、アンケートには屋外という問題はあるが、シーバスパークという回答もあった。

楠本委員) アンケートの回答を見ても、できるだけ1部制でやるほうがいいのではないか。

井上委員) 人数に問題が無いのであれば、1部の方がよい。

岡崎委員) アンケートは、どのように回収しているのか。参加人数からみると回答数が少ないと思う。

事務局) 市の使用しているアンケートフォームを活用している。

岡崎委員) 大学で学生から、授業アンケートなどをとろうとしても、なかなか回答がなく回収が難しい。とはいっても、そのままでは、なかなか実態が掴めない。それに対応するには、目の前で、スマホでアンケートフォームにアクセスしてもらい、回答してもらうしかないと思う。実際に大学ではそのようにやっている。すぐに回答できるように、記述式ではなく、なるべくシンプルにするなど、アンケートの取り方は工夫したほうがいいと思う。

竹内教育長) 現在、法改正があり成人は18歳ということになった。そこで成人式という名称の式典は取りやめて、「二十歳のつどい」として実施している。市が、式典ではなく、同窓会のようなイベントを実施するということでもいいのか、委員のみなさんはどのような考えをお持ちか。

祐仙委員) 18歳で実施しても、大学受験を控えており参加しないのではないか

岡崎委員) 時期を変えと言っても、夏休みでも難しいのではないかと。夏休みだからこそ、学生は忙しい。18 歳で行うとして、時期をずらすのであれば 3 月がいいのではないかと。

楠本委員) 地方に進学した子が帰省するタイミングということで、現状の時期がいいのではないかと。地方ではお正月にやっているところもある。

富山委員) 法律的には 18 歳が成人だが、飲酒できるようになる 20 歳が一般的にはうけているようだ。すぐに変化をとというよりも、ひきつづき検討していくということがいいのではないかと。

③大学連携事業について

- ・事務局より、報告した後に質疑、意見交換をおこなった。

岡崎委員) 今年も実施した「親子でつくる SDGs 自由工作」であるが、盛況であった。これまでおこなってきたテクスピア大阪の小ホールから、旭小の多目的室に変更したが、会場が狭くなった影響で、参加する大学生の人数を絞らざるを得なくなった。そこが課題である。

井上委員) 桃山学院大学等で実施した企画展示については、大学の学芸員講座などで、それをみてのレポートを課すなど、授業でも活用することが出来た。非常によい連携ができたと感じている。

富山委員) いずみおおつスポーツフェスティバルについてであるが、以前はいわゆる運動会形式でトラックを走っていたタイプのものから、こういった複数のブースで実施する形が定着してきたと思っているし、学生も非常に大きな学びをいただいているようだ。

e スポーツについても実験的にやってみた。子どもたちが集まるかと思っていたが、あまり人気がなく、この場では、もっと外で遊びたいという気持ちになるようであった。

次の課題としては参加者同士の横の繋がりを生み出すようなことができないかということをおもっている。例えば、最後に実施している抽選会があるが、知らない人 5 人からサインしてもらったら抽選に応募できるとか、そういう横の繋がりを深められるようなきっかけづくりになっていけばと思っている。

市内の小学校を順にまわって、今年度で一周した。来年度から新しい計画を立てて、よりたくさんの子供たちに参加してもらい、効果を上げていくことが命題なので、今度は人数を少し、40 人ぐらいに絞って、年間通してやっていこうと思っている。引き続き、いろんな形で取り組んでいきたい。

その他

(1) 泉北・泉南地区社会教育研修会について

- ・事務局より、報告した後に質疑、意見交換をおこなった。

祐仙委員) だんじりの話をしていただいた和歌山大学の吉村先生のお話しが非常に良かった。

楠本委員) 文化財担当者による、デジタルアーカイブの話が良かった。非常に能率的に仕事をしている職員だと感じた。

終了 14:30